



中井 勝己

一般社団法人東北経済連合会 参与

食農学類の開設

平成から令和に変わった2019年の春、福島大学は農学群食農学類(入学定員100名、専任教員38名)を開設しました。既存の人文社会系(人間発達文化学類、行政政策学類、経済経営学類)、理工系(共生システム理工学類)に、新たに農学系分野が加わりました。

食農学類の開設は、2011年3月の東日本大震災・福島第一原発事故によって大きなダメージを受けた福島の農業の再生と復興という地元からの強い要望に応え、そして地元からの多大な財政的支援を得て実現しました。

福島県は全国第3位の面積を誇り全国有数の農業県であるにもかかわらず、なぜか東北6県の中で唯一4年制大学に農学部がない県でありました。そのため、福島大学に農学部ができたことに対して大きな喜びと期待が寄せられています。地元のメディアでは、この4月の食農学類第1期生の入学式から、農業実習や5月に学生全員で行った田植えなどもニュースにして頂いています。

食農学類は、生産環境学コース(専任教員10名)、農業生産学コース(専任教員10名)、食品科学コース(専任教員10名)、農業経営学コース(専任教員8名)という4つの専門分野で編成されており、食品の「川上から川下」を繋げる「フードチェーン」を意識した学類構想に基づいています。特に「食品科学コース」に専任教員の4分の1が在籍している農学系学部は珍しく、本学食農学類の「農学専門教育」の大きな特色となっています。

また、2年生後半から学生・教員全員がチームを組んで福島県内の9つの地域に出かけ、それぞれの地域課題(例えば、6次産業化、先端農業の推進、福島ブランドの復興、地域再生)を見つけ、地元の農業関係者等とともに考え学ぶという「農学実践型教育」をもう1つの特色としています。

「農学専門教育」と「農学実践型教育」の2つの柱からなる「新たな農学教育」により、実践的農学を身につけ、国際化時代の食と農の課題に対して主体的・創造的に取り組んでいく地域リーダーを育成していくことを目指しています。

大学キャンパスから徒歩10分程度のところに水田3カ所、畑2カ所、果樹園1カ所が「附属農場」として整備され、大学キャンパス内に農業用ビニールハウスもできました。農業実習は1年次の「必修科目」となっており、毎週木曜日の午後には長靴を履き、カラフルな作業着を着て出かける学生の姿が見かけられ、先日もビニールハウスで栽培した観賞用ヒマワリを学長室に届けてくれました。

福島大学は、食農学類の開設によって、福島の農業の再生と復興のみならず、「新しい農業」のあり方を発信していきたいと思っています。

(福島大学 学長・なかい かつみ)